

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	中野 匡隆
最終学歴	学 位	専門分野
中京大学大学院 体育学研究科 博士前期課程修了	修士（体育学）	運動生理学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】真に信頼して事を任せうる人格を育成する。

【目標】建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に則って、
主体的な学びと経験を養うことのできる教育活動を目指とする。

【方針】大人数の授業では、わかりやすい授業を目指す。

少人数の授業では、対話的な学びと課題解決の実践を中心とした授業を目指す。

【計画（方法）】

大人数の授業では、授業方法を工夫し、学生が興味を持てるように授業改善をしながら、わかりやすい授業を実施し、個々の理解度や進度に対応したフィードバックを心がける。そのためのオンデマンド資料を空いた時間でコツコツと作成、あるいはWEB 上で見つける。少人数の授業では、学生に対して個別の対応をしながら、対話的な学びと課題解決の実践を中心とした運営を心がける。また、できる限り実践的な現場を用意する。

【担当科目】

（前期）運動生理学、解剖生理学Ⅰ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合野外活動実習Ⅰ

（後期）トレーニング実習、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、健康実践演習、総合野外活動実習Ⅱ・Ⅲ

○教育方法の実践

イメージしやすいようにできるだけ動画や図表を多く使用し、視覚的に理解できる授業を行うよう努め、単元終了時に小テストなどを実施して理解度の確認ができるようにした。

○作成した教科書・教材

授業内容を理解するための小テストを作成した。

○自己評価

演習の授業の一部に取り入れたフィールドワークについて、良い点、悪い点が明らかになったが、一定の手応えを感じた。今後、フィールドワークをより良いものに発展させ、学生同士が横のつながりで切磋琢磨できるような運営方法を模索していきたい。

II 研究活動

○研究課題

地域高齢者の体力測定、熱中症に関する測定

○目標・計画

【目標】

口頭発表 1 回以上、査読付論文 1 本以上、科研費あるいは外部資金の獲得を目指す。

【計画】

授業の隙間の時間、研究日や夏季・春季休暇期間を利用して、研究活動を行う。具体的には、5～9 月に測定を実施し、1 月以降に口頭発表と論文化を目指す。

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究実績（特許等含む）

（著書）

- ・尚爾華・澤田 節子・谷村祐子・肥田 幸子・中野匡隆・木野村嘉則『長寿社会を生きる ―地域の健康づくりをめざして―』地域研究創造叢書 No27 唯学書房 2017 年 3 月
- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邊美貴、鈴木貞夫、中山佳美、森満、馬利中、中野匡隆、丸岡利則『高齢社会の健康と福祉のエッセンス』地域研究創造叢書 No32 唯学書房 2019 年 11 月

（学術論文）

- ・加治木政伸、山下直之、稲葉泰嗣、中野匡隆、渡辺新大、刑部純平、松岡大介、松本孝朗『屋根付きテニスコートの WBGT 測定：-日射遮蔽効果の検証-』日本生気象学会雑誌 57(1)p17-23, 2020
- ・山下直之、伊藤僚、中野匡隆、樊孟、松本孝朗『携帯型発汗計を使用したグレンデスキー中の局所発汗量の測定』発汗学 26(1) p2-9, 2019
- ・中野 匡隆『運動によって誘発される遅発性筋痛に対する人工炭酸泉浴の影響』東邦学誌 47(2), 101-107, 2018
- ・葛原憲治、長谷川望、中野匡隆『スキー・スノーボードの傷害について Skiing and snowboarding injuries』東邦学誌 45(2), 15~24, 2016
- ・山下 直之、伊藤僚、中野匡隆、樊孟、田井村明博、松本孝朗『熱中症の事前学習が熱中症既往者数に及ぼす影響』日本生気象学会雑誌 53(1)p31-38, 2016

（学会発表）

（特許）

（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

（研究分担） 基盤研究 C『腸内細菌叢の状態が個人の運動効果に与える影響』課題番号：21K11349
研究期間：令和 3 年度～令和 5 年度

○所属学会

日本体力医学会、日本生気象学会、一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会、日本運動疫学会、

○自己評価

2023 年度の研究目標は、「1 本以上の論文を投稿する」であったが、達成することができなかった。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

- 1) キャリア支援センター運営委員として、委員会重点課題に基づいてその職務を果たし、大学運営に貢献する。
- 2) 学部内の新カリキュラムにおける実践的な学び、及びその成果物の作成のための取り組みに貢献する。

【計画】

- 1) キャリア支援センター運営委員として、定例会議での議事の学部への伝達を実施する。
- 2) 実践的な学びの機会として、名東区内でのスポーツ文化の活動を維持する。卒業時の成果物（卒業論文等）の作成のためのライティングスキル向上のために、他授業と連携した基礎演習での取り組みも試行錯誤する。

○学内委員会等

○自己評価

1) 委員会重点課題に基づいてその職務を果たした。

2) 実践的な学びの機会として、名東区内でのスポーツ文化の活動は発展することができた。今後の発展のため、さらな試行錯誤を継続する。基礎演習でのライティングの取り組みは、煩雑となってしまう、完全点が多く見つかった。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】 子供からシニアまでのスポーツや健康づくりへの寄与

【計画】

今まで実施してきたシニア向け教室を拡大しつつ、シニア世代以外への活動も徐々に展開していく。

「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」にかかる活動に尽力する。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

○自己評価

2023 年度は、スポーツ庁委託事業は非採択となったが、をスポーツ文化振興局のご尽力のもと名東区と連携して、区内 7 小学校学区でスポーツイベントを開催し、2024 年度での発展の足がかりを作ることができ、計画以上の成果があった。逆に今まで続けていたシニア教室のうち、中野担当分が参加者不足で閉鎖となったので、中高年からシニア向けの取り組みを根本から考える必要がある。

V その他の特記事項（学内研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

VI 総括

社会貢献活動は 2022 年度に引き続き、大きな成果があった。一方で、研究や測定は、十分にできていなかったのもので、研究にも効率よく進行できるように環境を整えて、研究目標を達成したい。

以 上